

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 2893000246 | | |
| 法人名 | 株式会社 ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | ニチイケアセンター尼崎稲葉荘 (ひまわり) | | |
| 所在地 | 兵庫県尼崎市稲葉荘4-5-10 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年3月18日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年7月1日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kanji=true&JigyosyoCd=2893000246-00&PrefCd=28&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター | | |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル | | |
| 訪問調査日 | 平成27年4月28日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心・安楽な生活の中で、その人らしさをいつまでも持続して頂けるよう、スタッフ一同チームケアを大切に自立支援させて頂きます。
又、ホームの理念でもある”楽しいわが家”を目指し、家族のようであり、尊厳を守る明るい居場所でありたいと思っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは大切な拠り所としてホームの理念を職員と考え「楽しいわが家」と掲げ、利用者一人ひとりに楽しく過ごしてもらい楽しいわが家となるよう日々のケアを実践しています。これまでに積み上げてきた取り組みを継続しながら、重度化の中で利用者本位の介護や尊厳を守るケアに徹するよう月目標に掲げて毎月会議で振り返り支援に取り組んでいます。管理者は職員の様子にも気を配り個々に声をかけ意見を聞いたり、職員間のチームワークを大切に働きやすい環境となるよう努めています。防災訓練では地域の方に見守りの協力を得たり子供達の見学などもありホームを知ってもらえる機会になっています。

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

| 自己 者 第 三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|---|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | |
| 1 | (1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者と、申し送りスタッフは朝礼時にニチイの”社是”および”経営理念””ほほえみ尼崎稲葉荘理念”である”楽しいわが家”の唱和を行い 共有している。 | 法人の理念を基にホームとしての理念を職員と考え、意識できるように玄関や事務所に掲げて朝礼時に読み上げ、新人職員には業務の中で理念に込めた思いを伝えています。日々のケアは、自立度の違い等に配慮し個々に合わせた支援を考えて共有し、実践に繋げています。 | |
| 2 | (2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 自治会に入会し 自治会長 民生委員さん等に運営推進会議に参加して頂き、情報交換している。(利用者様参加もあり)(夏祭り、消防訓練などでは 子供さんの参加もあり) | 自治会に加入し、近隣の散歩時に挨拶を交わしたり、声をかけてもらえる関係を築いています。ホームで行なう敬老会や夏祭り、消防訓練などの行事の案内は地域の掲示板で参加を募り、子供や地域の方の参加があり、交流できる機会となっています。演奏やマジックショーを披露しにボランティアの方が定期的に訪れています。 | |
| 3 | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地区CM連絡会に参加し情報交換している。 | | |
| 4 | (3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 地域の運営推進委員の方から意見や助言を頂き、サービス向上に活かしている。 | 会議は隔月に開催され、利用者や家族、地域包括支援センター職員、自治会長、民生委員等の参加の下、入居者状況や活動報告、職員の異動について等その時々テーマも決めて意見交換をしています。消防訓練の夜間帯の対応の説明や消防車が出勤する訓練時に子供が見学に来たり、災害時の見守りを依頼する等、地域との協力体制作りに繋がる有意義な会議となっています。 | |
| 5 | (4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センター職員の方に運営推進会議に参加して頂いているので 困難事例等を相談していきたい。(GH連絡会に高齢介護課職員の参加あり) | 管理者は届出や書類の提出などで窓口に出向いたり、行政の参加があるグループホーム連絡会に参加し情報交換を行っています。今後研修案内が届いた際には参加して伝達研修をしていきたいと考えています。 | |
| 6 | (5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 業務ミーティングにてマニュアルの周知を行い正しく理解している。 玄関は施錠していない。 | 身体拘束について年1回の研修や毎月のミーティングで学び、退院時に一時的に家族の希望があれば身体拘束の弊害について説明し理解を得ています。待つ際には声のかけ方に留意し拘束のないケアを心がけています。フロア出入口はロックしていますが出かけた方には付き添い、行事の時や体制があれば開ける時間を作り、閉塞感のない暮らしの支援に努めています。 | |
| 7 | (6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 業務ミーティングで十分に全員に周知できている。スタッフ間の情報交換も行っている。利用者様の変化に注意している。 | 毎年ある研修や勉強会、カンファレンスの場で虐待について学ぶ機会があり、全職員に周知しています。管理者やリーダーにいつでも相談できるように声をかけたり、職員の様子やストレスに気を配り、虐待の防止に努めています。 | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---|------|--|---|---|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | スタッフ会議にて話し合い 必要性のある方には支援していく。 (パンフレット回覧あり) | 権利擁護に関するパンフレットを準備し参考にしながら説明をし、現在制度を利用する方を支援しています。年間の研修計画に制度についての研修があり、管理者が参加して情報をもらい回覧で伝え理解に努めています。 | |
| 9 | | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時、利用者様と家族様が不安に思うことに耳を傾け、納得いくまで話し合いを行っている。 | 契約時に質問をしやすいよう丁寧に時間を掛けて説明をしたり、料金や加算についてはより丁寧に、項目毎に質問に応じて納得してもらえるよう努めています。看取りについては指針に基づいて説明を行い家族の不安なことも聞いています。 | |
| 10 | | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 介護相談員さんの定期的来所(2回/月)や、行事参加などで利用者様の話しを聞いて頂き、毎回内容・報告をうけて検討項目とし運営に反映している。 | 月2回介護相談員を受け入れ利用者の意見を聞いてもらっています。家族の面会時には意見を言いやすいように声をかけたり、運営推進会議や家族会、ホーム便り、法人のアンケートの実施等様々な機会を通して意見や要望を聞いています。家族から作品展に出品するアイデアやレクリエーションの内容を教えてもらい、日々のサービスに活かしています。 | |
| 11 | | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | スタッフ会議で意見や提案を聞くようにしている。個人面談も随時行っている。 | 毎月の職員会議では業務上の事や全利用者のケースについて意見や提案を聞き、利用者の対応方法等話し合っています。欠席者は申し送り時に聞いたり、事前に意見を書いてもらっています。日々の挨拶や随時の個人面談を行い話しやすい心がけ、人事考課による個人面談を予定しています。委員会や担当者からの意見も出ており検討し、内容によっては法人に挙げています。 | |
| 12 | | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアアップ制度の周知によるモチベーションの向上を図っている。 他サービスへの 異動の希望もあれば話しを聞くようにしている。 | | |
| 13 | | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修には全員が参加できていないが、業務ミーティング・導入研修・ケアマネ研修・フォローアップ研修など行っている。 | | |
| 14 | | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム連絡会(討論会・交換研修・勉強会等)に参加して、サービスの質の向上に努めている。 | | |

ニチイケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用者様本人から聞くことは難しい為 家族様にも協力して頂き 出来るだけ 利用者様の思いをくみとり安心して頂けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族様の話しを聞く機会を作って 困っていること、不安に思うことを聞き、納得がいくまで回数を重ねて話し合う。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回アセスメント時に、生活暦等を把握し、馴染みの暮らしが持続できるよう支援に努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 洗濯物を畳んで、居室へ運ぶのを利用者様と共に行うことで共存の意識も生まれ、関係の構築に努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | スタッフは利用者様と家族様との仲介役を担い、行事などの参加を促したり、生活ぶりや 身体の状態等を 毎月ホーム便りを通して報告している。 | | |
| 20 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 電話の取次ぎや面会時の案内などより良い支援を心がけている。 | 入居時に面会者について家族の希望を聞いたり、新たな面会者は家族に確認しています。友人や知人の訪問時には机や椅子を用意しゆっくりしてもらえよう配慮しています。近隣から入居した方は散歩を兼ね馴染みの所へ買い物に行ったり、家族と墓参りや買い物に行く際には出かける支度をしたり手紙のやり取りができるよう支援する等、馴染みの関係が継続できるように努めています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士が関わりあい、孤立しないよう スタッフが仲介してサポートしている。 | | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約が終了すると、家族様との連絡も少なくなり、必然的に関係がうすくなっているが電話連絡等がある方もいる。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居前にセンター方式にて情報収集 できる限り家族様、利用者様の希望・意向の把握に努めている。 | 以前のケアマネジャーや家族、本人を交えてホームで面談し、暮らしの様子や趣味、生活歴、希望等を聞き、事前に書いてもらった情報に追記し基本情報として把握しています。申し送りノートや介護記録を基にカンファレンスで利用者の思いについて話し合い、多くの情報を得て思いの把握に繋がっています。把握が困難な時は改めて家族に聞いています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 初回アセスメント時に、生活歴やこれまでのサービス利用の経過等をまとめたシートを作成し、これまでの 暮らしが持続できるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 月に1度のカンファレンスを行い、利用者様の状態を把握し スタッフ全員が共有している。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画書作成時に、家族様訪問時や電話等から生活に対する意向などを聞き、取り入れ6か月毎に交付している。 | アセスメントや本人、家族の意向を基に初回の介護計画案を作り、サービス担当者会議で関係者の意見を聞き作成しています。毎月行うカンファレンスで職員の意見や新たな情報を得てモニタリングを行っています。6ヶ月毎に現状把握に繋がるよう再アセスメントをして計画を見直し、状況に変化があれば都度見直しています。医師の意見は往診時や必要な方には事前に聞いて反映しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録に分かりやすく記録し、特変時など確実に申し送りを行うようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問理美容・特別な買い物・臨時通院等 随時対応している。 | | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防士を交え、年2回 消防訓練など行っている。楽団・マジックのボランティアにも定期訪問してもらっている。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者様と家族様の希望に応じて主治医を決定し、適切な医療を受けられるように支援している。 | 入居時に今までのかかりつけ医の継続ができる事や月2回往診に来てもらえる提携医について説明し、全員が提携医を選んでいきます。専門科への受診は家族が対応し、希望があれば紹介状や介護タクシーの手配をしたり、往診を受けることもあります。提携医と訪問看護師の連携や24時間連絡が取れる体制にあり、受診の結果や往診の内容は家族に報告しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 1回/週 医療連携体制による訪問看護師による体調管理を行っている。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 家族様・医療機関・主治医と連携し、早期退院に向け、カンファレンスを行っている。 お見舞いに行った時に病院よりの情報を収集するようにしている。 | 入院時の支援では見舞いに行った際に医療関係者と情報交換をしています。退院に向けたカンファレンスに参加し、再発等も含め家族の今後の意向や注意事項を確認しながら安心して退院をしてもらえるよう支援しています。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合は、家族様、主治医と話し合いを持ち、全員で方針を共有し 関係者と共に支援にとりくんでいる。 | 入居時には看取りについてホームの方針を丁寧に説明しています。往診医や訪問看護師、家族の協力のもとで看取りに近い支援をしたことがあります。支援の際は医師から状況を家族に説明し、看護師や職員の意見も聞いて方針を共有し、家族の意向に添えるよう看取りの支援に取り組んでいます。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故トラブル報告書 ヒヤリハットの共有、活用。緊急時対応マニュアルの周知。業務ミーティング開催。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 夜間1名対応時の避難方法は、全員周知している。地域の協力も運営推進会議で呼びかけ快諾を得ている。 年に2度消防署の指導の下、避難訓練を行っている。 | 避難訓練は年に2回消防署の協力の下、昼と夜間を想定して実施しています。利用者も参加して通報や初期消火、避難誘導の訓練を行い、連絡方法や対応についても確認しています。運営推進会議の出席者や地域の方に案内をして参加が得られ、利用者の見守りの協力を得ています。また地域の防災の取り組みも確認しています。 | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの尊厳を守り 常に笑顔と言葉づかいに注意をして声かけ、対応をしている。 | 月目標に「初心に戻る」と定め、特に利用者の尊厳を守るケアを大切に、ミーティングで話し合い、利用者の立場に立ったケアに努めています。丁寧な言葉遣い等については接遇マナー研修で伝え、介護の場面では自分に置き換えて考えるよう指導したり、気になることは理由を伝えて職員に注意をしています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 自己決定できない際、家族様に確認し納得して頂くようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者様のペースに合わせた対応を心がけている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問理美容 1回/月 パーマ、毛染、カット、顔剃り 外出時や行事の時は スタッフがお化粧やヘアセットをしている。同じ服装にならないよう気配りしている。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者様ができるそれぞれの役割を持ち、見守りながら一緒に行っている。食事介助の方には食材の内容を説明しながら支援している。 | 食事は利用者に聞いて職員が献立を決め、体質による代替食にも配慮をしています。利用者の出来る事を探しながら配膳や食器洗い、盆拭き、味見等に関ってもらっています。おやつは手作りでパンケーキなどを一緒に作ったり、お節料理や巻き寿司等の行事食を提供し楽しめるよう工夫しています。寿司の出前を取ったり、喫茶店への外食には全員が出かけ食事を楽しんでもらっています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日食事摂取量と水分量を記録し、1日1300mlは摂取できるよう 細めに水補している。水分が摂れにくい利用者様には トロミをつけ 嚥下低下の利用者様には ミキサー食を提供している。(Dr指示) | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。(歯科往診もあり) 歯みがきは出来ない所は介助を行っている。 | | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう誘導している。トイレ毎に陰部洗浄を行い 清潔保持に努めている。 | 座位や立位が安全にとれる支援方法を全職員が共有しトイレでの排泄を基本として支援をしています。個々の排泄パターンを把握し、訴えない方や支援の必要な方のリズムに合わせてトイレ誘導をしています。排泄用品の選択は家族にも相談したり、ウォシュレットの使用やトイレに座ってもらうことで失敗が減る等、自立へ向かえるようミーティングで検討して支援を行っています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 起床時の水分摂取、定期的なトイレ誘導での、便秘予防。水補時にヤクルト、野菜ジュース等、便秘によい飲物や朝食にさつまいも・ヨーグルト・バナナ等提供。適時腹部マッサージを行っている。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 週1~3回ペースだが、希望や体調に応じて入浴を実施している。(シャワー浴・2人介助もあり)足浴や手浴を行って 気分転換を図っている。 | 入浴は週に2~3回を目途に日中の時間帯で希望に沿って入ってもらっています。浴室の温度差に留意し一人ずつ湯を入れ替え、希望があれば入浴剤を入れたり、好みのシャンプーを使い個々の入浴の習慣を大切にしながら入浴を楽しめるよう支援しています。拒否をされる時は時間や日をずらし、声かけを工夫して入ってもらっています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室に音や光が入らぬよう環境を整えているが眠りの浅い利用者様には 体調にあわせて日中、居室のベッドで休養をとってもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者様が服用している薬の服薬管理を確実に 行い 症状の変化の確認と主治医への報告に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | その人の趣味 嗜好に合わせた気晴らしの支援を行っている。 お盆拭き、廊下の散歩、歌観賞、読書など。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コンビニに行ったり、ホーム周辺の散歩や玄関先での日光浴等支援している。 近くの喫茶店に外出ツアーも実施している。 | 近隣を散歩したり、徒歩で行ける近場での買い物や公園の並木道などに出かけています。地域の喫茶店に出かけたり、近所の花壇の花や玄関先の桜を見ながら季節を感じてもらったり、テラスで日光浴や畑の水やりをして外気に触れ気分転換を図ってもらっています。また家族の協力を得て墓参りやスーパーへ買い物に出かける方もいます。 | |

ニチケアセンター尼崎稲葉荘(ひまわり)

| 自己 | 者 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|----|--|---|--|-------------------|
| | | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お金を使用することへの支援はしているが 頻度は多くない。お小遣いの管理は事務所でやっている。 | | |
| 51 | | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 手紙やハガキはスタッフと一緒に書いている。電話の支援も行っている。 | | |
| 52 | (23) | | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 不快な音や光が入らないよう、窓やカーテンの開閉を こまめに行っている。また、ホーム敷地内に咲いた花などを花瓶に差し、季節感を採り入れている。リビングの壁面に行事の写真などを展示している。加湿器の使用もあり。 | リビングは南向きで明るく、カーテンで日差しを調整したり、温・湿度管理し利用者の体感にも配慮して居心地の良い環境作りに努めています。玄関先のプランターで季節の花や野菜を栽培し季節感や生活感に配慮をしています。居心地よく過ごせるようテーブルの配置やテレビを見ながら寛げる二人掛けのソファや椅子を置くなど好きな場所で過ごしてもらえるよう工夫をしています。 | |
| 53 | | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビング横に和室を設け、利用者様と家族様がくつろげるスペースを造っている。(ソファも活用している) | | |
| 54 | (24) | | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | それまで使っていた 家具やベッド 愛着のある生活用品を使用している。 家族様や行事等の写真を居室におき 利用者が安心して過ごせる空間作りに努めている。 | 各居室に馴染みの物を持ち込んでもらい、出来るだけ自宅に近い環境で過ごせるように家族と相談しながら配置を工夫しています。テレビや筆筒、椅子、ベット、時計等の他、家族の写真や好きな歌手の等身大のポスターを身近に置いて楽しみや安心に繋げています。部屋ではスリッパに履き替えたり、窓の換気や掃除をしている方もおり、これまでの生活習慣を活かしながら居心地の良い居室となるよう配慮しています。 | |
| 55 | | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全や混乱がないように 常にスタッフが見守りや声かけをして 自立支援を行っている。 | | |